

# STOP！再稼働 さようなら原発北海道集会 ～ 全道各地から1500人

—泊原発再稼働反対！大間原発建設中止！深地層研究直ちに中止！訴え—

さようなら原発1000万人アクション北海道実行委員会主催の「さようなら原発北海道集会」が10月6日午後、札幌市大通公園西8丁目広場で開催されました。全道各地から労働組合員や脱原発諸団体、一般市民など1500人（主催者発表）が参加しました。

**敷地内の活断層が否定できない泊原発は、数年以内に廃炉以外にない—小野有五さん**

集会では、さようなら原発北海道実行委員会の呼びかけ人3氏が挨拶。小野有五北大名誉教授は、泊原発敷地内の断層問題について訴えました（写真）。



今年2月の原子力規制委員会の審査で、1号機や2号機の直下近くにあるF-1断層は、40万年前以降の断層にずれがあり、活断層である可能性を否定できないと私たちが調査して説明してきたことを認める判断を示しました。ところが北電は、再度掘削調査をすると言い、その結果を9月27日の審査会合で示しましたが、そのデータは見れば見るほど北電の主張に根拠がないことが明らかになるものです。1、2号機とも数年以内に廃炉になることは間違いありません。また、3号機の近くを

走るF-1断層も40万年前以降動いたことが明らかになってきており、3号機も廃炉にする以外にありません。北電の主張は全く成り立たなくなっています。力を合わせて泊原発を廃炉させましょう—と呼びかけました。

**トリチウムによる内部被ばくの危険性に警告 — 西尾正道さん**

呼びかけ人の西尾正道医師（国立北海道がんセンター名誉院長）は、原発はトリチウムを海に放出しており、その内部被ばくにより水素結合しているDNAを破壊し重大な影響を及ぼすと力説、泊原発の営業運転開始数年後から周辺自治体のがん死亡率が急増、泊村が全道1位、岩内町が2位になっているとのべ、原発は廃止する以外にないと力説しました。

**新エネ・省エネ条例に基づき、原発をやめて新エネに展開しよう — 麻田信二さん**

麻田信二さん（道生協連会長理事）の訴え—福島原発事故後、原発はコスト高になり、安倍内閣の海外輸出は総破たんし、世界は原発をやめて再生エネへと大きく流れを変えてきている。北海道は、原発を過渡的エネルギーとし新エネに変えていく条例を早くに制定している。この条例を実践して、原発をやめて、北海道にある豊富な資源を生かして、風力や太陽光、バイオマスやバイオガス発電など、新エネに流れを切り替えていくべきだと訴えました。

次いで、次の2つの報告と訴えがあり、拍手でこたえました。

**老朽原発・東海第二原発は地元了解なしに再稼働できない、地元自治体が再稼働しないよう運動を強め廃炉に追い込む — 茨城県脱原発運動団体からの訴え**

幌延深地層研究センターは、道民との約束通り、20年で研究を終了し、地上施設は撤去し、地下施設は埋め戻すよう、ともに力を合わせよう — 道北連絡協からの訴え

**「原発ゼロ 基本法を実現しよう！」の横断幕掲げデモパレード**

道原発連は、この集会からノボリと共に、新しく作成したカラフルな横断幕「原発ゼロ基本法を実現しよう！」も掲げて行進しました。（写真）

